

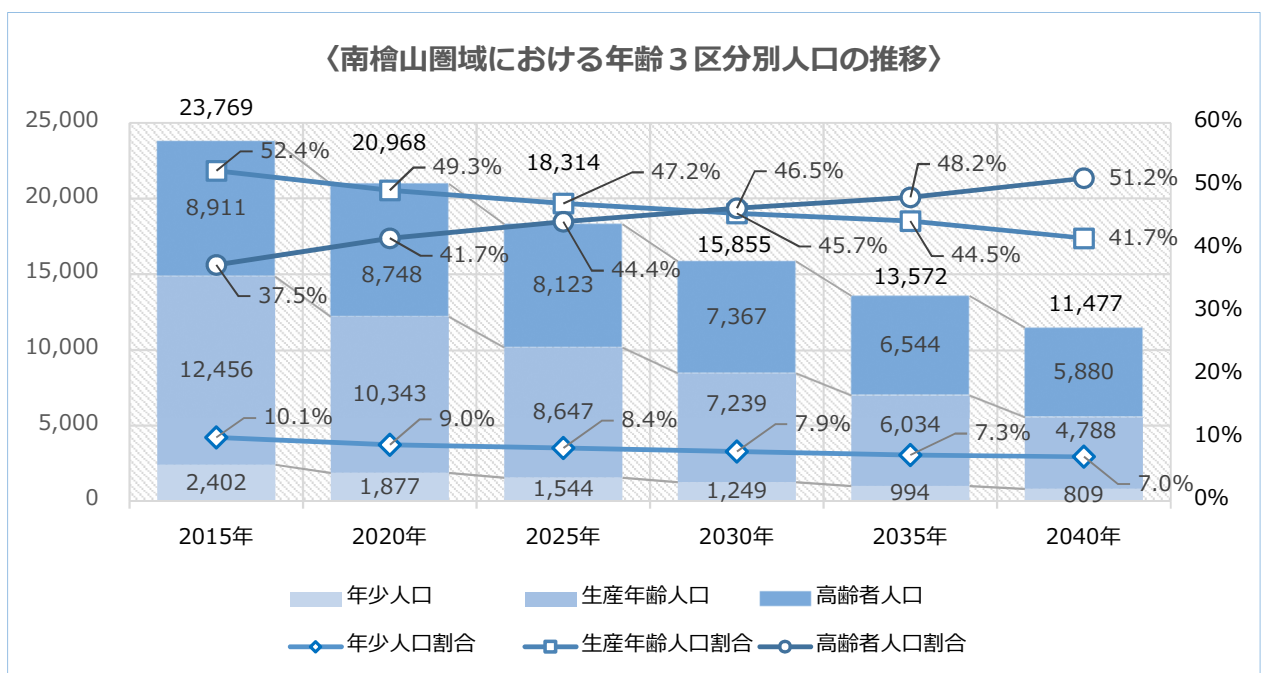
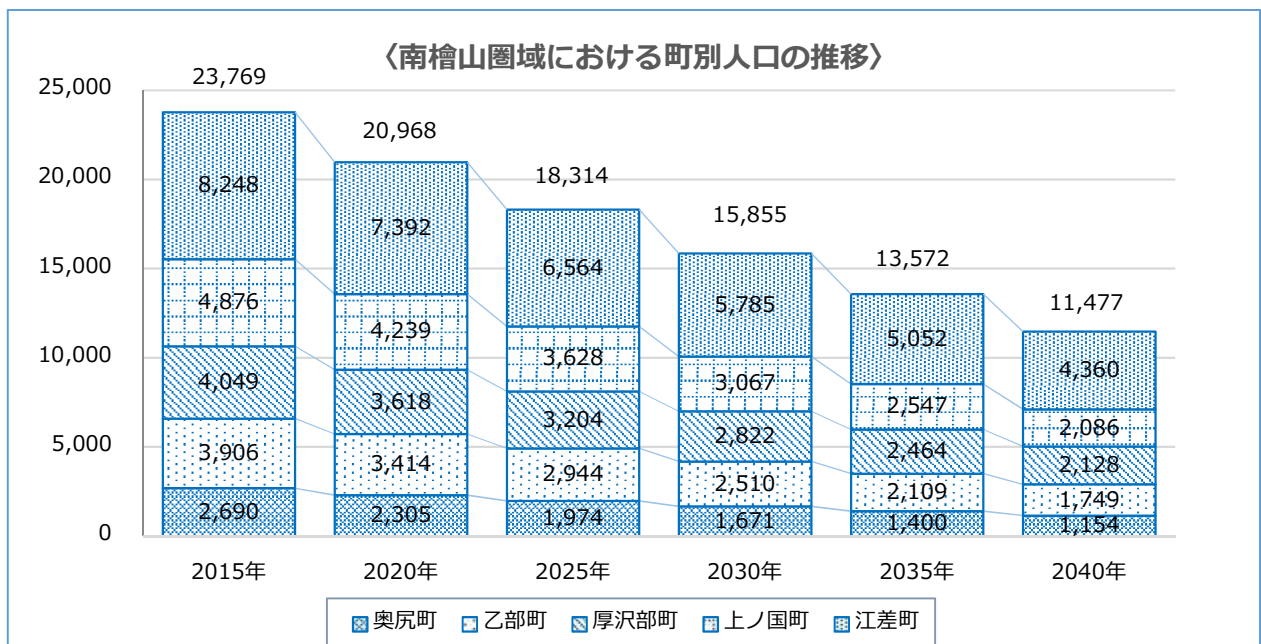
江差病院について

1 南檜山医療圏域の現状について

(1) 圏域の人口推計

南檜山圏域における人口は、2020年(令和2年)が20,968人、2025年(令和7年)には18,314人、2040年には11,477人にまで減少することが推計されており、2020年から2040年の20年間でおよそ45%の人口減が見込まれている。

また、年齢構成については、年少人口の割合が減少を続ける一方で、高齢者人口の割合は増加を続け、2040年には圏域内人口の約5割、2人に1人が65歳以上の高齢者という、人口減少と高齢化が極めて進展した圏域になることが推測されています。(※出典：国立社会保障・人口問題研究所)



(2) 入院患者受療動向

南檜山圏域における入院の受療動向については、圏域内の受療が 15.7%、南渡島圏域が 79.7%と なっています。

【令和 2 年度 受療動向】

区 分	南檜山	南渡島	札 幌	その他
南檜山	15.7%	79.7%	3.9%	0.7%

(「電子レセプト情報受療動向等分析事業」(道保健福祉部))

(3) 南檜山圏域の医療資源等

① 各医療機関の診療科目等

市町村名	医療機関	許可病床数	常勤医師数	診療科目																		
				内科	循環器内科	消化器内科	呼吸器内科	外科	整形外科	産婦人科	小児科	脳神経外科	泌尿器科	精神神経	眼科	耳鼻科	皮膚科	麻酔科	リハ	アレルギー科	胃腸内科	放射線科
江 差	道立江差病院	一般	146	9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		感染症	4		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		計	148		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	医療法人社団恵愛会 佐々木病院	療養	60	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	医療法人雄心会 江差脳神経外科クリニック	一般	4	1									○									
厚 沢 部	厚沢部町 国民健康保険病院	一般	45	4	○																	
		療養	24		○																	
奥 尻	奥尻町 国民健康保険病院	一般	22	3	○																	
		療養	32		○																	
	計	54	○																			
乙 部	乙部町 国民健康保険病院	一般	52	2	○																	
		療養	10		○																	
上ノ国	町立上ノ国診療所	一般	19	1	○																	
		一般	19	1	○																	

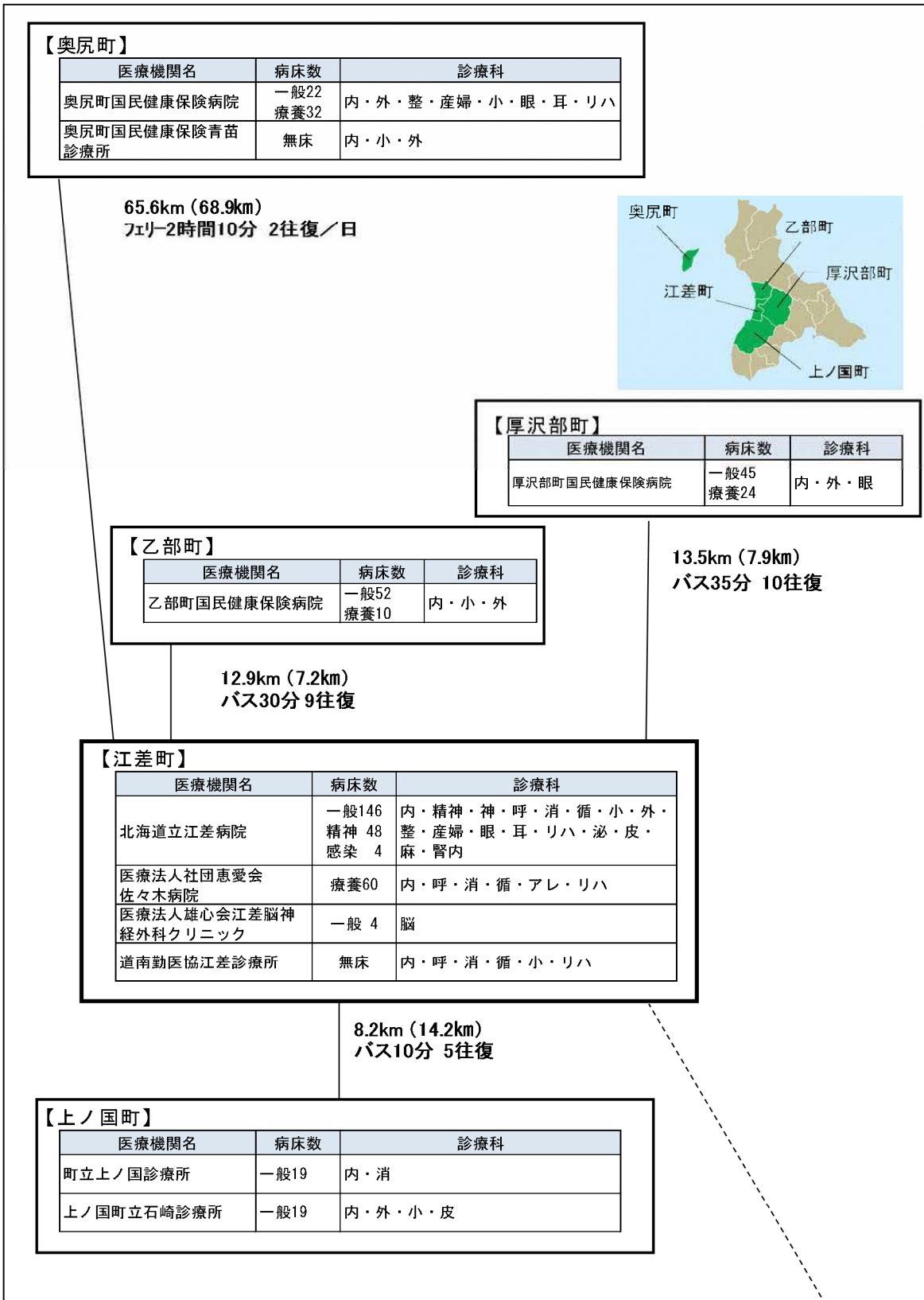
※R2 病床機能報告制度(許可病床数、常勤医師数)、北海道医療機能情報システム(診療科目)R4.4.1 現在より整理

② 各医療機関の指定の状況

市町村名	医療機関	指定第二種医療機関	がん診療	道がん指定	脳卒中急性期	脳卒中回復期	急性心筋梗塞	糖尿病	二次救急	災害拠点	DMA T	へき地医療拠点	へき地診療所	周産期母子医療センター	産科・婦人科標ぼう	助産師外来・院	小児救急医療支援事業	道小児地域支援	小児科又は小児外科標ぼう	在宅療養支援病院・診療所
江 差	道立江差病院	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	
	医療法人社団恵愛会 佐々木病院						○													
	医療法人雄心会 江差脳神経外科クリニック								○											
	道南勤医協 江差診療所							○											○	
	厚 沢 部	厚沢部町 国民健康保険病院						○	○											
奥 尻	奥尻町 国民健康保険病院				○		○	○							○					○
	奥尻町国民健康保険 青苗診療所												○							○
乙 部	乙部町 国民健康保険病院						○	○												○
	上ノ国	町立上ノ国診療所					○						○							
上ノ国	上ノ国町立 石崎診療所						○						○							○

※北海道医療計画等から道立病院局にて整理

③ 各医療機関の位置関係等



※表中の距離は、各町役場間の距離。
ただし、括弧内は、江差病院から各役場までの距離。

(4) 現状の病床数と 2025 年の必要病床数の推計

医療機関名	許可 病床数	稼働 病床数	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟
道立江差病院	146	108	0	108	0(16)	0	38
厚沢部町国保病院	69	29	0	45	0	24	0
乙部町国保病院	62	25	0	0	0	52	10
奥尻町国保病院	54	38	0	22	0	32	0
医療法人社団恵愛会佐々木病院	60	60	0	0	0	60	0
医療法人雄心会江差脳神経外科クリニック	4	0	0	4	0	0	0
町立上ノ国診療所	19	16	0	0	0	19	0
上ノ国町立石崎診療所	19	0	0	0	0	0	19
合計	433	276	0	179	0(16)	187	67
2025 年見込み	399	—	0	179	0	163	57
必要病床数 (2025 年)	245	—	0	56	119	70	—

※各病院の現状及び 2025 年見込みは、R2 病床機能報告による（精神病床及び感染症病床は含まれない）。

※表中の括弧内の数は、北海道厚生局届出受理医療機関名簿による地域包括ケア病棟入院料又は地域包括ケア入院医療管理料算定病床数。

※2025 年必要病床数は、北海道地域医療構想による。

(5) 地域医療構想の実現に向けた取組の方向性

(地域医療構想推進シートから一部抜粋)

取組項目	目指す姿
医療機関の機能（診療科）や体制（救急医療体制等）が一部重複していることによる役割分担等に向けた取組	地域の拠点病院である道立江差病院の急性期医療を確保しつつ、急性期を通過した患者の在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能、高齢者等を支える医療を推進するため、介護部門と連携を図り各町の医療機関の役割分担を明確にして病床の機能分化を推進する。
急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる医療機能（回復期病床）の確保に向けた取組	患者の疾病からの回復が遅延したり、A D L の低下を招くことのないよう、医療機関が相互に連携、役割分担をして、切れ目なく円滑に患者の状態に応じた医療を提供する。
限られた医療資源（病床や医療従事者等）を有効に活用するための医療機関の再編・ネットワーク化に向けた取組	医療と介護の連携を推進する会議の開催等により、在宅医療や介護の理解を深め、入院開始時から在宅復帰を目指した支援をリードする人材の確保・育成、I C T を活用した地域医療ネットワーク（南檜山地域医療連携システム）の有効活用など複合的に取り組む。
高齢化の進行に伴い、住み慣れた地域や自宅での生活を支えるため、その受け皿となる在宅医療等の確保に向けた取組	24 時間体制で対応できる在宅療養支援診療所（病院）を整備することにより、圏域内の医療機関との相互協力による在宅医療連携システムを構築する。
地域（市町村）における高齢者の住まいの確保等に向けた取組	今後、在宅医療を必要とする患者の増大が見込まれることから、地域医療介護総合確保基金を活用し、例えば医療機関の既存の病床を施設や住宅に転換する等、居住系サービスの整備を図る。

2 江差病院の診療実績等について

(1) 沿革

年 月	内 容
S23. 8	・日本医療団から道へ移管（一般 87 床：内科・外科・産婦人科・耳鼻咽喉科）
S44. 3	・旧病院から移転（前庁舎）（一般 101 床、結核 49 床：内科・外科・産婦人科）
4	・地域センター病院として指定
S55. 9	・結核 49 床を一般病床に転換（一般 150 床）
H 5. 2	・人工透析開始
H 9. 3	・地域災害医療センター病院（災害拠点病院）指定
H10. 7	・現庁舎へ移転開設（200 床：一般 150 床、精神 50 床） 内科、外科、産婦人科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、神経科、精神科
H13. 4	・感染症病床 4 床増築
H13.10	・地域周産期母子医療センター指定
H19. 4	・病床数変更（198 床：一般 150 床（感染 4 床含む）、精神 48 床） ・亜急性期病床 8 床開設
H26.10	・亜急性期病床廃止
H28. 3	・DMAT（災害派遣医療チーム）指定医療機関に指定
H29. 8	・地域包括ケア病床 8 床開設
R 元. 5	・地域包括ケア病床 8 床増床（計 16 床）
R 2. 11	・新型コロナウイルス感染症専用病棟（24 床）を整備
R 3. 5	・新型コロナウイルス感染症専用病棟を増床（24 床→32 床）

(2) 病院概要

(令和 4 年 4 月現在)

区 分	現 行
診 療 科	総合診療科(内科)、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、透析、外科、産婦人科、小児科、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、泌尿器科、精神科
病 床 数	運用病床 152 床（一般 108 床、感染 4 床、精神 40 床）、透析 18 床 ※許可病床 198 床
職 員 数	130 名（医師 9、看護職員 87、医療技術者 20、社会福祉士 2、事務 12）
特 徴 等	<ul style="list-style-type: none"> ・南檜山圏域唯一の地域センター病院・第二種感染症指定医療機関 ・圏域で唯一の精神医療及び人工透析の実施 ・第二次救急医療機関として、病院群輪番制に参画するとともに、災害拠点病院の指定を受け、災害発生時には DMAT（災害派遣医療チーム）を派遣できる体制を整備 ・地域医療連携推進法人南檜山メディカルネットワークにおける取組を通じて、南檜山圏域における持続可能な医療提供体制の構築に向けた取組を推進 ・第二種感染症指定医療機関として、検査・診療センターにおける発熱外来や新型コロナ専用病床による陽性患者の受入を実施

(3) 医師、看護師数の推移

(各年度 4 月現在)

区分	H31(R1)		R 2		R3		R4	
	定数	現員	定数	現員	定数	現員	定数	現員
医 師	17	10	17	9	17	10	17	9
看 護 師	105	83	105	88	105	89	105	87

※看護師には助産師、准看護師を含む。

資料 2 - 1

【各年度現員数（4月現在）】

年度	医師	看護師	助産師	薬剤師	放射線技師	検査技師	臨床工学士	理学療法士	作業療法士	栄養士	社会福祉士	事務職員	計
H31	10	79	4	3	5	6	3	2	1	1	—	11	125
R2	9	85	3	3	5	6	3	2	1	1	1	12	131
R3	10	86	3	3	5	5	4	2	1	1	1	12	133
R4	9	84	3	3	5	4	4	2	1	1	2	12	130

(4) 診療科別医師数及び平均患者数の推移

区分	診療科		1日平均患者数			診療体制（R4年4月1日現在）	
			H31(R1)	R2	R3		
入院	内科	総合診療	8.3	4.9	12.5	常勤4	
		循環器内科	13.2	10.0	9.4		
		消化器内科	0.0	0.0	0.1		
		呼吸器内科	—	—	—		
		内科計	21.5	15.0	22.0		
	外科	0.0	0.0	0.0	常勤1		
	産婦人科	0.0	0.0	0.0	非常勤		
	小児科	0.9	0.3	0.4	常勤1		
	整形外科	24.8	18.4	11.9	常勤1		
	泌尿器科	1.9	1.6	1.1	常勤1		
	神経・精神科	7.1	5.4	4.4	常勤1		
	計	56.3	40.7	39.6	常勤9		
外来	内科	総合診療	16.2	19.2	22.0	常勤2	毎日
		循環器科	54.3	50.4	51.6	常勤1	4/週
		消化器科	16.4	8.8	9.9	非常勤	毎日
		呼吸器科	5.9	5.3	5.1	非常勤	2/週
		透析	34.0	33.7	38.1	—	毎日
		内科計	126.7	117.5	126.7	常勤3	
	外科	3.6	4.0	5.2	常勤1 ※総合診療	3/週	
	産婦人科	3.6	2.3	2.3	非常勤	月・火/隔週	
	小児科	25.4	14.2	18.2	常勤1	毎日	
	整形外科	49.0	45.8	45.0	常勤1	毎日	
	耳鼻咽喉科	10.3	8.9	9.3	非常勤	2/週	
	眼科	8.0	7.2	7.3	非常勤	1~2/週	
	皮膚科	13.1	12.4	12.2	非常勤	1/週	
	泌尿器科	19.2	18.2	19.8	常勤1	毎日	
	精神神経科	25.4	21.8	19.4	常勤1	毎日	
麻酔科	—	—	—	非常勤	月~水:手術対応		
合計	284.4	252.4	265.4	常勤8			

(5) 収支状況等について

区 分		(単位)	H31(R1)		R2		R3	
			プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績見込
収 益 的 収 支	収 益 A	(百万円)	2,082	1,746	2,071	2,284	2,134	2,961
	費 用 B	(百万円)	3,009	3,009	3,024	2,961	3,181	2,908
	収 支 差 C=A-B	(百万円)	▲ 927	▲ 1,263	▲ 953	▲ 677	▲ 1,047	53
経 機 営 能 指 指 標 標	病床利用率	(%)	68.2	37.0	68.2	27.2	34.0	26.8
	一 般	(%)	70.4	43.9	70.4	32.1	41.7	32.6
	精 神	(%)	62.5	17.7	62.5	13.6	13.2	11.0
	医業収支比率	(%)	65.4	53.6	64.6	47.1	50.3	47.8
	医薬材料費対医業収益比率	(%)	22.1	24.3	22.0	25.5	26.0	21.5
	後発医薬品使用割合	(%)	80.0	88.3	82.0	87.2	85.0	94.3
	紹介患者件数	(件)	1,440	1,248	1,440	1,096	1,344	1,223
	地域包括ケア病床利用率	(%)	70.0	98.6	70.0	97.4	90.0	92.0
	入 1 日平均患者数	(人)	101.0	56.3	101.0	40.7	50.3	39.6
	院 患者1人1日当たり収益	(円)	28,534	35,789	28,534	40,007	38,318	36,772
	外 1 日平均患者数	(人)	324.5	284.4	324.5	252.4	285.7	265.4
	来 患者1人1日当たり収益	(円)	9,674	11,003	9,674	11,224	11,340	11,210

3 北海道病院事業推進委員会からの評価・意見

H30	<ul style="list-style-type: none"> ○地域における透析患者の動向を把握し、その動向を踏まえた透析部門の体制を確保すること。 ○道内体育大学からの研修医の受入れなど、医師の確保に向けた連携強化を図ること。 ○南檜山圏域の医療提供体制の見直しの議論に積極的に参画し、今後の江差病院のあり方の検討を進めること。
R 元	<ul style="list-style-type: none"> ○地域包括ケア病床の病床利用率が目標を達成していることは評価する。 ○精神病床の病床利用率が低いことから、地域のニーズを把握した上で、今後の効率的な運用に向けた検討を進めること。 ○「南檜山圏域の医療を確保するための行動方針」に基づき、「地域医療連携推進法人」制度も活用しながら、関係医療機関等との連携強化を一層、進めること。
R2	<ul style="list-style-type: none"> ○入院医療を含めた精神科診療体制については、地域のニーズを把握した上で、今後の方向性について検討を進めること。 ○「地域医療連携推進法人」制度も活用しながら、圏域内の医療機関間の機能分担、業務連携について取組を進めること。

4 江差病院の現状、課題及び方向性について

(1) 現状

- 南檜山圏域における唯一の地域センター病院として医療の提供に努めています。
- 圏域で唯一、精神医療の提供及び人工透析を実施しています。
- 第二次救急医療機関として、病院群輪番制に参画しています。
- 災害拠点病院の指定を受け、災害発生時にはDMAT（災害派遣医療チーム）を派遣できる体制を整備しています。
- 令和元年(2019年)5月に地域包括ケア病床を8床増床し、計16床としました。また、病床利用率は9割以上を維持しており、令和3年度(2021年度)には92.0%と高い利用率となっています。
- 平成30年度(2018年度)から総合診療医（内科・常勤）を確保しています。
- 令和2年度(2020年度)から産婦人科医（常勤）が不在となり、南檜山圏域内での分娩が一時休止しています。
- 第二種感染症指定医療機関として、検査・診療センターにおける発熱外来や、令和2年11月に整備した新型コロナ専用病棟による陽性患者の受入を行っています。
- 地域の医療機関や医育大学から研修医や医学生を受け入れ、地域医療を担う医師の養成に努めています。
- 地域医療連携推進法人南檜山メディカルネットワークにおける取組を通じて、南檜山圏域の医療機関間の機能分化や連携強化を進めるとともに、持続可能な医療提供体制の構築を推進しています。

(2) 課題

- 一部診療科において、常勤医師の確保に至っていないことから、医師をはじめとした診療体制の確保が必要です。
- 精神科の病床利用率、平均入院患者数が減少傾向にあることから、地域のニーズに合わせた診療体制の検討が必要です。

(3) 方向性について

- 南檜山圏域の地域センター病院として、急性期医療、人工透析等、重要な役割を担っており、今後も必要な診療体制や回復期機能を確保します。
- 総合診療医の養成・確保に向けて、札幌医科大学が設置した「地域医療研究教育センター」に引き続き医学・研究フィールドを提供するとともに、札幌医科大学と連携を密にしながら、初期臨床研修医や医学生の研修受入を推進します。
- 地域医療構想の実現に向けて、地域医療連携推進法人南檜山メディカルネットワークにおける取組を通じて、医療機関間の機能分担、業務連携を推進します。
- 入院医療を含めた精神科診療体制については、地域のニーズを把握した上で、今後の方向性について検討します。